

尋ネ問答シテ歸リケルニ、一條堀川ノ辰橋ヲ渡リケル時、東ノツメニ齡廿餘ト見エタル女ノ膚ハ如雪ニテ、誠ニ姿幽ナリケルガ、紅梅ノ打著ニ守懸ケ、佩帶ノ袖ニ經持テ、人モ不具、只獨南ヘ向テヅ行ケル、

〔台記〕久安四年六月廿八日甲寅、去比女房土左、余（藤原賴長）實母姊問入内○賴長養母事成否於一條堀川橋。  
余不<sub>レ</sub>知之二度始日曰、心ニ思ハム事不<sub>レ</sub>叶ト云コト有ナムヤ、後日云、住任<sub>レ</sub>理テ申サム、叶ハデ有ム懂事トアルコト也、

七年正月十日壬午

久安六年十月二十六日□辰、一條堀川橋占左近府生泰公春注進

一ばんのことは

ここゆみとらせん、よ、いさとりあはせん、えたりとりはよきに、いかなとむとりなりとも、もてた、あはせむ、よにまけじに、

又つぎのことは

ほどもなく、これをみたびとほりぬ、なこれをますぐにいけば、あれはよびてこむ、

〔源平盛衰記<sup>十</sup>〕中宮御産事

治承二年十一月十二日寅時ヨリ中宮御産ノ氣御座スト匄ケリ、○中二位殿○平清盛妻心苦ク思給

テ、一條堀川辰橋ニテ、橋ヨリ東ノ爪ニ車ヲ立サセ給テ橋占ヲゾ問給フ、十四五許ノ禿ナル童部

ノ十二人、西ヨリ東ヘ向テ走ケルガ、手ヲ扣ヘ同音ニ、摺ハ何摺、國王摺、八重ノ鹽路ノ波ノ寄摺ト、

四五返ウタヒテ橋ヲ渡、東ヲ差テ飛ガ如シテ失ニケリ、○中一條辰橋ト云ハ、昔安部晴明ガ天文

ノ淵源ヲ極テ、十二神將ヲ仕ケルガ、其妻職神ノ貌ニ畏ケレバ、彼十二神ヲ橋ノ下ニ呪シ置テ、用

事ノ時ハ召仕ケリ、是ニテ吉凶ノ橋占ヲ尋問バ、必職神人ノ口ニ移リテ、善惡ヲ示スト申ス、サレ